

『新編 一宮町史』編さん事業の活動報告

No.3 上智大学所蔵資料調査(考古・近世)

令和4年度から10年計画で新たな町史『新編 一宮町史』の編さん事業を行っています。

旧『一宮町史』は、昭和39年(1964)に刊行され、刊行後60年が経過しています。

地域のアイデンティティである郷土の歴史を後世に伝えていくべく、編さん委員会を中心に調査活動を進めています。

このコーナーでは調査活動の様子を紹介していきます。今回は上智大学での調査を紹介します。



▲古文書調査の様子

1960年代、一宮町を含む東上総地域では、上智大学による歴史調査が行われました。その成果は上智大学史学会・史学研究会編『東上総の社会と文化』(1968年)などに報告されています。

この調査では「考古部門」(待山古墳や柚ノ木横穴などの発掘調査)、「歴史部門」(古文書の所在調査)、「民俗部門」(方言調査や聞き取り調査など)の3分野で調査が行われました。とりわけ待山古墳の発掘調査では円筒埴輪が二十数基発掘されたといい、町の歴史にとってこれらの調査成果は重要なものです。

この調査は旧『一宮町史』の編さん中に行われ、冊子は編さん後に発行されているため、調査成果は町史に反映されていません。そのため、『新編 一宮町史』の編さんにあたっては、これらの資料の再調査が不可欠です。

数年前より、上智大学がこれらの資料を所蔵しているという情報を受け、2023年から町史編さん事業として、同大学の多大な「厚意のもと、再調査を行っています。

未整理の資料も数多くあり、整理・調査作業には時間がかかっています。が、ここでは現在の調査の進捗状況を簡単に報告します。

まず、冒頭でも述べた待山古墳出土とみられる円筒埴輪は数基確認できました。また、柚ノ木横穴出土の須恵器なども確認できています。

これまでの再調査で、江戸時代に一宮本郷村で名主をつとめた秦彦兵衛に関する古文書も確認されました。点数こそそれほど多くはありませんが、九十九里浜における地曳網漁に関する資料群で、これまで知られていなかった資料です。現在写真撮影および活字化作業を順次行っています。



▲待山古墳出土とみられる埴輪の一部

このようにこの2年間で徐々に整理作業は進んできていますが、特に考古資料の整理はこれから、という段階です。今後も継続して調査を進めていきたいと思っています。

なお、詳しい調査状況については、左記の文献をご参照ください。

- ・浅野友輔「報告」上智大学文学部史学科所蔵資料に関する調査報告―今後の保存・活用に向けて―『上智史学』69号、2024年  
<https://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/20250114006>

- ・江澤一樹「報告」地域史研究と大学―今後の上智大学所蔵千葉県一宮町関係資料の利活用―『上智史学』69号、2024年  
<https://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/20250114005>

- ・岡山亮子「調査研究」上智大学所蔵の一宮町関係考古資料の再整理事業について―収蔵資料の概要―(『一宮町史研究』創刊号、2025年)

【問合せ】教育課 (学芸員・江澤一樹)  
 ☎(42)1416